

日本語教育推進基本法元年・多文化共生と多角的連携をめざして：ふくおか日本語教室ネットワーク・ワークショップ：資料集

松永，典子
九州大学大学院比較社会文化研究院

<https://hdl.handle.net/2324/2556324>

出版情報：2020-02-19
バージョン：
権利関係：

日本語教育推進基本法元年・多文化共生と多角的連携をめざして
一ふくおか日本語教室ネットワーク・ワークショップ

資料集

日時:2020年2月9日(日) 13時~16時
場所:福岡県人権啓発情報センター・視聴覚研修室(クローバープラザ7階)

日本語教育推進基本法元年・多文化共生と多角的連携をめざして
—ふくおか日本語教室ネットワーク・ワークショップ—

資料集 目次

	頁
1 プログラム	
2 主催者挨拶 (特活)女性エンパワーメントセンター福岡 理事長 松崎百合子	1-3
3 基調報告 「福岡県内の地域日本語教室の現状等について」 福岡県国際局国際政策課 参事補佐兼交流推進係長 大井裕	4-6
「日本語教育推進法、地域日本語教育にどう活かすか」 九州大学大学院比較社会文化研究院 教授 松永典子	7-9
4 各教室からの活動報告	
日本語教室あさくら:草野節子	10-11
日本語ひろば・いとしま:小迫田幸子	12-13
柳川日本語教室水かげろう:戸島真由美・河口有子	14-15
八女日本語教室よーら話そう!:伊藤福子	16-18
むなかた日本語教室:高 和道	19
かすが・にほんごひろば:竹石久美子・松浦蘭子	20-21
5 参加できなかった教室からのメッセージ	22
うきは日本語教室「みんなの果樹園」代表 諫山和代 日本語くらぶ田川 代表 末廣容子	

プログラム

第一部 13:00~14:30 司会

石川多美子

1 主催者挨拶 松崎百合子

2 基調報告 「福岡県内の地域日本語教室の現状等について」
福岡県国際局国際政策課 参事補佐兼交流推進係長 大井裕
「日本語教育推進法、地域日本語教育にどう活かすか」
九州大学大学院比較社会文化研究院 教授 松永典子

3 各教室から活動報告:13:40~14:30

- ①日本語教室あさくら:草野節子
- ②日本語ひろば・いとしま:小迫田幸子
- ③柳川日本語教室水かげろう:戸島真由美・河口有子
- ④八女日本語教室よーら話そう!:伊藤福子
- ⑤むなかた日本語教室:高 和道
- ⑥かすが・にほんごひろば:竹石久美子・松浦蘭子

第二部 14:40~15:50 進行 松永典子

4 ワークショップ 課題ごとのグループワーク

- ①子どもの日本語支援
- ②技能実習生の日本語支援
- ③移住女性
- ④国際学生
- ⑤教室運営・連携について

5 全体討議

6 まとめ・アンケート

日本語教育推進基本法元年・ 多文化共生と多角的連携をめざして

一ふくおか日本語教室ネットワーク・ワークショップ

2014年2月 第1回ふくおか日本語教室ネットワークワーク
発足会議 (文化庁助成事業)

女性エンパワーメントセンター福岡 松崎百合子

- 1、女性への暴力防止と支援
- 2、移住女性の支援活動
- 3、国際協力と平和の活動

空白地域に日本語教室の開設を

2006年度 「外国人のための地域交流プロジェクト」
調査・多言語相談・セミナー (福岡県との共働事業)

2007年度 柳川教室 田川教室

2008年度 うきは教室 * 朝倉教室 * 八女教室

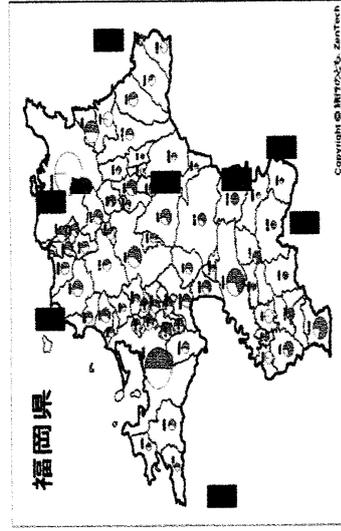
2009年度 * 中間教室 * 宗像教室

2010年度 * 糸島市

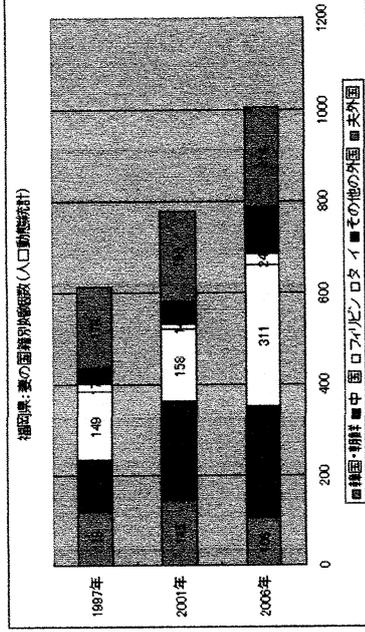
2011年度 * 直方市

2012年度 * 行橋市 (*の7教室は県交流センター委託)

2006年調査 (男女比) 女性：県内全域に散住、
少ないほど厳しい環境 (友達、孤立)

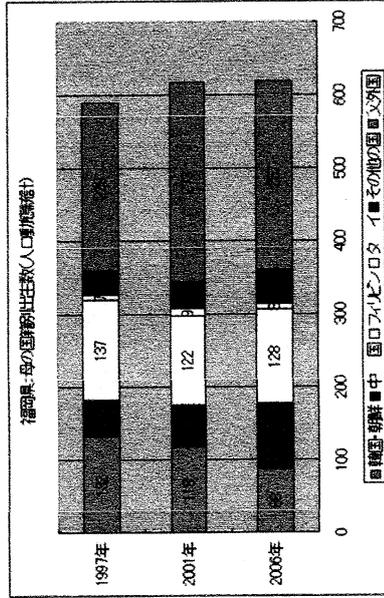


3、福岡県の国際結婚 (2006年1004組3.3%) 8割が妻外国籍、フィリピン311組、中国246組、



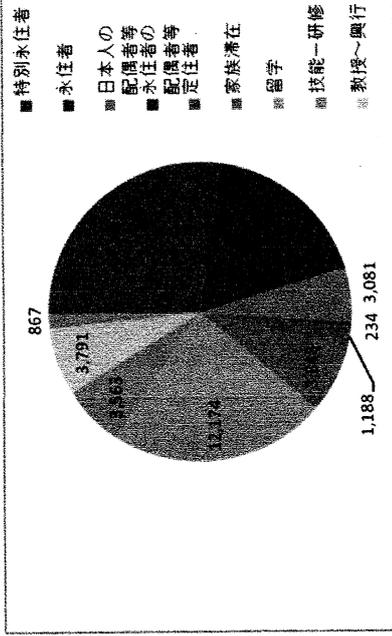
4、福岡県の国際子の出生数

毎年約600人：母フィリピン128、中国90人他に、両親とも外国籍、日本国籍取得者、呼び寄せ子など



福岡県の外国籍住民

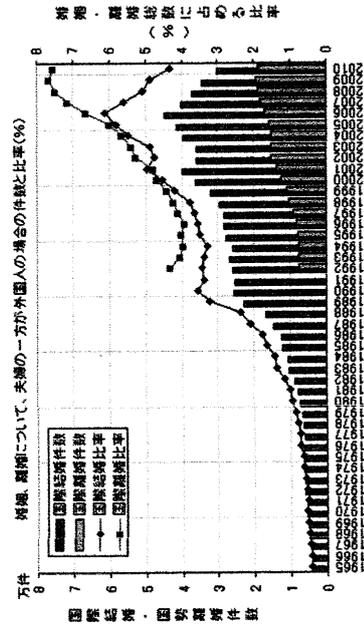
2011年末52,555人（永住～家族滞在3分の1）



1、国際結婚と離婚

<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/1190.html>

国際結婚の動向



多文化住民・女性の抱える課題

言葉の壁、文化の壁、制度の壁

- 1、孤立、孤独～頭痛、視力低下、動悸～心身症
 - ・母語で話せる友達・家族がいない、気持ちを吐き出せない、周りの人の会話がわからない～強いストレス
- 2、生活・自立の困難
 - ・重要な情報が得られない（入学通知、子ども手当、仕事...）
 - ・行動の自由・自立が困難（自宅、仕事先、スーパー）
- 3、妊娠・出産・子育ての困難
 - ・医者、保健師、保育士、学校、情報、食べ物、支援者
- 4 DV・ドメスティック・バイオレンス
 - ・逃げられない、相談先がわからない、法的地位の弱さ

地域の日本語教室の役割

- ① 人とのつながり場（孤立・ストレス・情報交換）
 - * 母語での会話、友達づくり、情報交換・相互扶助
- ② 日本語の習得（日本で生きる力）
 - * 長期在住でも読み書きはできない
 - * 問診表、保育所・学校からのお便り
 - * 看板が読めるようになったー世界が開ける
 - * 時間ももたない、学ぶ意欲
- ③ 子育て支援（子どもと一緒に）
 - * 異国：言葉、文化の違い、情報と援助者（親、姉妹）不足での妊娠、出産、子育てー育児ストレス解消、相談、助言

福岡県内の地域日本語教室の 現状等について

福岡県 企画・地域振興部 国際局 国際政策課
参事補佐 兼 交流推進係長 大井 裕

令和2年2月9日

I 福岡県の在留外国人の状況（法務省「在留外国人統計」から）

1 在留外国人数の推移

（単位：人）

平成 25 年末	平成 26 年末	平成 27 年末	平成 28 年末	平成 29 年末	平成 30 年末	令和元年 6 月末
56,437	57,696	60,417	64,998	72,039	77,044	79,129

2 在留資格別の人数

	平成 25 年末	令和元年 6 月末	対 H25 比
留学	14,232	19,167	134.7 %
永住者	10,876	13,974	128.5 %
技能実習	3,271	12,825	392.1 %
特別永住者	13,805	11,755	85.2 %
技術・人文知識・国際 業務	2,341	6,217	265.6 %
その他	11,912	15,191	127.5 %
合 計	56,437	79,129	140.2 %

・在留資格別の人数で最多は、「留学」。(福岡県の特徴)

・「技能実習」、「技術・人文・国際」といった働き手としての外国人が大きく増加。

※1 県内の外国人労働者数 令和元年 10 月末時点 52,530 人（前年:46,273 人）
（出典：厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況のまとめ」）

※2 本県の特定技能 1 号在留外国人数は、R1 年 9 月末時点で 11 人。

3 国籍別の人数

	主な在留資格	平成 25 年末	令和元年 6 月末	対 H25 比
中国	永住者、留学	20,775	20,511	98.7 %
韓国・朝鮮	特別永住者、永住者	17,811	17,021	95.6 %
ベトナム	技能実習、留学	3,145	16,067	510.9 %
ネパール	留学	2,964	6,512	219.7 %
フィリピン	永住者、技能実習	3,922	5,471	139.5 %
米国	永住者、技術・人文	1,373	1,516	110.4 %
その他		6,447	12,031	186.6 %
合 計		56,437	79,129	140.2 %

・ベトナム・ネパールからの入国が増えており、「技能実習」、「留学」が大半を占める。

4 県内4地域の在留外国人数

(単位：人、各年末時点)

	平成27年	平成30年	増加率
県全体	60,417	77,044	127.5%
福岡地区	36,983	47,222	127.7%
うち、福岡市	30,312	37,733	124.5%
北九州地区	14,181	17,520	123.5%
うち、北九州市	11,758	13,410	114.1%
筑後地区	5,945	8,360	140.6%
筑豊地区	3,308	3,942	119.2%

- ・ 県内いずれの地域も在留外国人が増加傾向にある。

II 県内の地域日本語教室の状況（福岡県国際政策課調べ）

1 日本語教室を有する自治体及び県内教室数

(1) 日本語教室を有する自治体・・・29自治体

(内訳)

政令市	2自治体
その他の市	22自治体（27自治体中）
町村	5自治体（31自治体中）

(2) 県内教室数・・・96教室

2 県内日本語教室の運営状況等

(1) 運営主体

・ ボランティア	64
・ 自治体直営	16
・ 地域国際化協会等	8
・ 個人	3
・ 社会福祉法人	1
・ 不明	4

(2) 教室運営に当たっての課題（複数回答）

・ スタッフの高齢化・人材不足	18教室
・ 運営に必要な経費の不足	8教室
・ 受講生の能力の個人差（レベル分けができない）	7教室
・ 教室の周知・広報、生徒の確保	5教室
・ 生徒の交通手段	2教室

日本語教育推進法、 地域日本語教育にどう活かす

松永典子(九州大学大学院比較社会文化研究院)
mnori@scs.kyushu-u.ac.jp

2020年2月9日
於:福岡県人権啓発情報センター(春日市)



目次

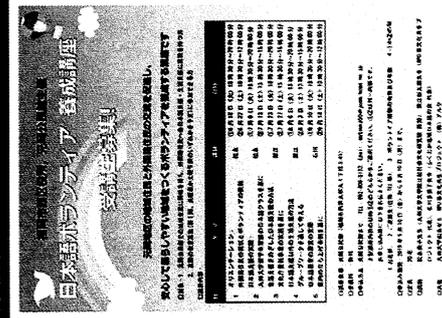
はじめに:地域日本語教育との関係

1. 共生社会づくりに不可欠な日本語支援
2. 外国人受け入れと地域日本語教育の現況
3. 日本語教育の新動向・日本語教育推進法
4. 日本語教育推進法、どう活かすか
5. 「共生」実現に向けた行動に向けて
おわりに:豊かな社会創造のために

地域日本語教育との関係

「国際化支援ボランティア養成セミナー」講師、(特活)女性エンパワーメントセンター
福岡、田川(2007)、久留米(2009)、中間(2010)
「日本語ボランティア養成セミナー」講師、(財)福岡県国際交流センター、(特活)女
性エンパワーメントセンター福岡、糸島(2010)、行橋(2011)、直方(2012)
平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業・地域日本語教育
実践プログラム(B)運営委員、女性エンパワーメントセンター福岡、2013
「地域づくりに果たす地域日本語教室とネットワークの役割」(ふくおか日本語教室
ネットワーク発足会議)における講演、女性エンパワーメントセンター福岡、2014
「福岡市日本語ボランティア養成講座」講師、(2014-2018)
文化庁委託事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業「福岡市で活
動する日本語ボランティア講師のためのエンパワーメント事業」運営委員
(2016-2018)

福岡市西区役所・元岡公民館主催・日本語ボランティア養成講座・
日本語教室開講(2019)・試行活動中 *産学官民協働



元岡国際交流ひろば
福岡市西区役所
元岡公民館主催
日本語教室の開設
小学校(PTA/教員)
企業(アルク)
NPO(多文化共生ブ
ロジェクト、ふくおか
地域日本語の会)
地域(自治会・
民生委員)
大学(大学院生・
学部生)

はじめに：共生社会づくりに不可欠な日本語支援
 1) 外国籍住民：「生活者」として永住化、定住化する傾向
 ⇒ 地域に住む隣人としての「共生」
 外国につながる子どもの教育

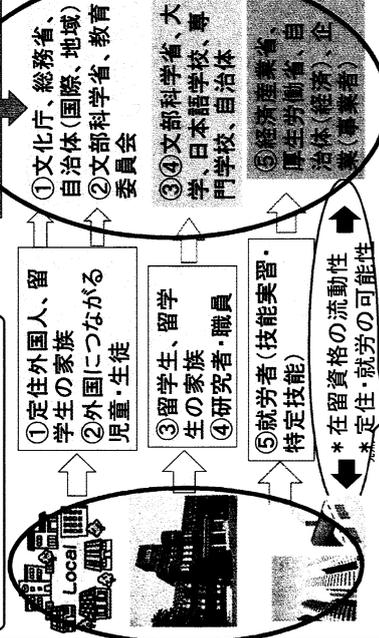
2) ともに生きるための安全・安心な地域づくり
 ⇒ 多様な文化背景の住民とどう「共生」していくか
 ⇒ 日本語ボランティア教室の役割

その「最前線」・結節点(①人：学習・相談・交流
 ②機関：自治体・地域(学校)・大学等)となる場所

九州大学国際化推進センター

2. 外国人受け入れと地域日本語教育の現況

(1) 対象者の拡大・多様化



2. 外国人受け入れと地域日本語教育の現況

(2) 地域日本語教育の現況

- ① 対象者の拡大・多様化
 ⇒ 日本語学習・生活支援者：主婦、定年退職者、兼業etc.
 a ほとんどがボランティア
 b 活動の継続・維持・発展が困難
 c 多様化への対応困難
 d 専門性獲得・研修の機会希少
- ② 教室の運営・活動：自治体等との連携、自主運営
- ③ ①②の課題に対応する体制・人材の不在

* 体制・連携・人材の必要性

九州大学

3. 日本語教育の新動向：政府の外国人材受け入れ方針

「日本語教育の推進に関する法律」(2019年6月21日)
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/other/suishin_hou_tsu/1418260.html (文化庁ホームページ)

● 法律制定の意義

- (1) 日本語教育の推進＝国内：多様な文化を尊重した共生社会の実現、海外：諸外国との交流の促進並びに友好関係の維持・発展に寄与するものであることが初めて明記。公的な位置づけの明確化
- (2) 本法律の制定 ⇨ 日本語教育を通して世界各国との友好関係の促進+日本にルーツを持つ海外在住者への日本語教育活性化
- (3) 本法律＝日本語教育の基本理念の構築、**日本語教育の責任主体の明確化(国、地方公共団体、企業)**

日本語教育推進のための会議体の設定と専門家の関与が明文化

3. 日本語教育の新動向：政府の外国人材受け入れ方針

●「未来投資戦略」(2018. 6. 15)

- (1) ビジネス日本語を在学中から習得させる。
- (2) 外国人留学生の就職情報をJETROに集約し、ポータルサイトを作る(2019年4月5日「高度外国人材活躍推進プラットフォーム」https://www.jetro.go.jp/hrportal/forprofessionals/study_work.html)

* 政府が提供する日本語教育関連情報、留学情報

- (3) 受け入れに関する方針は政府基本方針とし、閣議決定する。
- (4) 外国人児童生徒に対する日本語指導等の充実のためのモデルプログラムの開発・普及。
- (5) 日本語教師養成・研修のプログラム開発と日本語教師のスキルを証明する資格創設：「公認日本語教師」
- (6) 日系四世の受け入れ(年間4千人、18歳～30歳)。

九州大学JETROプロジェクト Kyushu Univ. JETRO

4. 日本語教育推進法、どう活かすか

● 地域日本語教育の課題：体制・連携・人材の観点から

- (1) 体制整備：国＝基本方針、都道府県＝地域の実態に応じた施策実施、市町村＝日本語教室の企画・運営・公的資金による日本語教育事業の活用⇒例：文化庁「地域日本語教育総合的な体制づくり事業」A(計画策定)・B(体制づくり)：県、教育委員会、国際交流協会、「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業」：市長村
- (2) 連携づくり：①共同事業体の創設、②上記事業に地域日本語教室大学、NPOが協力、専従のコーディネーターの設置
- (3) 人材育成：文化庁「地域日本語教育コーディネーター研修」への人材派遣(県からの派遣)、「日本語教育の人材養成及び現職者研修カリキュラムの開発事業」：県、大学
- (4) 結節点＝歩いて通える教室(校区が基本単位)⇒外国人のニーズの吸い上げ、地域住民への日本語教育の必要性への理解の拡大例：福岡市西区・公民館主催の教室2007

5. 「共生」実現に向けた行動に向けて(提案)

● 福岡の日本語ボランティア教室：体制・連携・人材の課題

日本語教室＝共生の場づくり【最前線・結節点】

- 福岡地域日本語教育共同事業体(仮)の創設
 - ① 外国人受け入れ施策に関わる所轄機関の連携：自治体
 - ② 関係諸機関の連携(北九州・福岡・筑豊・筑後)
 - ③ 多角的連携(体制)整備、日本語教室指導・支援
- 専従コーディネーターの設置(例：4ブロック)



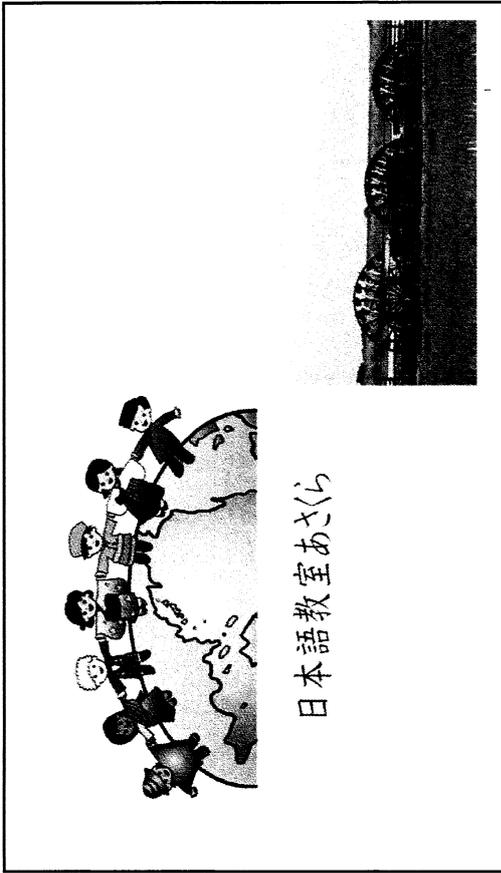
おわりに：豊かな社会創造のために

- ① 留学生・留学生の家族を対象に行った生活行動意識調査の結果
← 地域社会の「住みやすさ」を支える要因：日本語学習 > 日本語能力
 - ② 留学生・留学生の家族が地域で必要としているもの：
交流 > 相談・サポート・情報
不安、とまどい
 - ③ 地域住民への意識調査：接触経験の少なさ、外国語ができないことからくる
- ★ 豊かな社会の創造 ⇒ 教室活動(日本語学習・交流)を通して地域住民が異文化を理解する、外国人が地域の顔な
じみになる機会を提供することの必要性



共生社会づくりの最前線にある教室活動を支える
体制・連携・人材づくりを！

九州大学JETROプロジェクト Kyushu Univ. JETRO

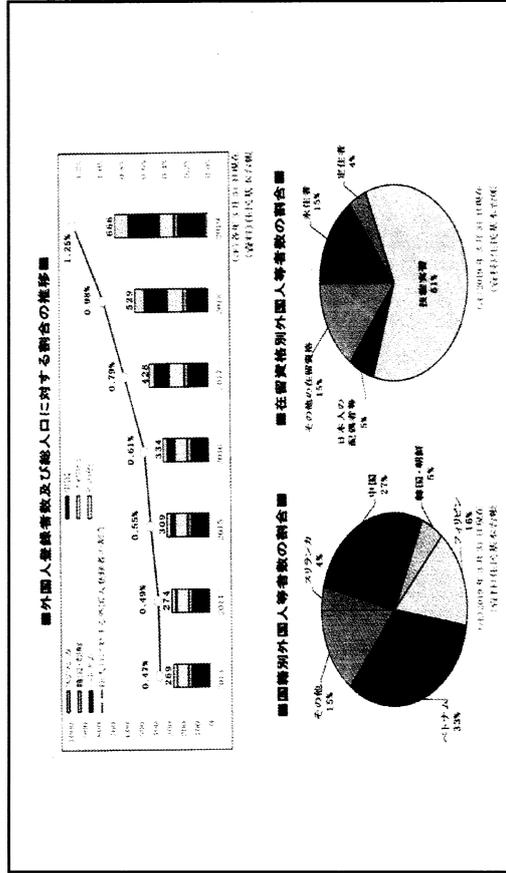


1

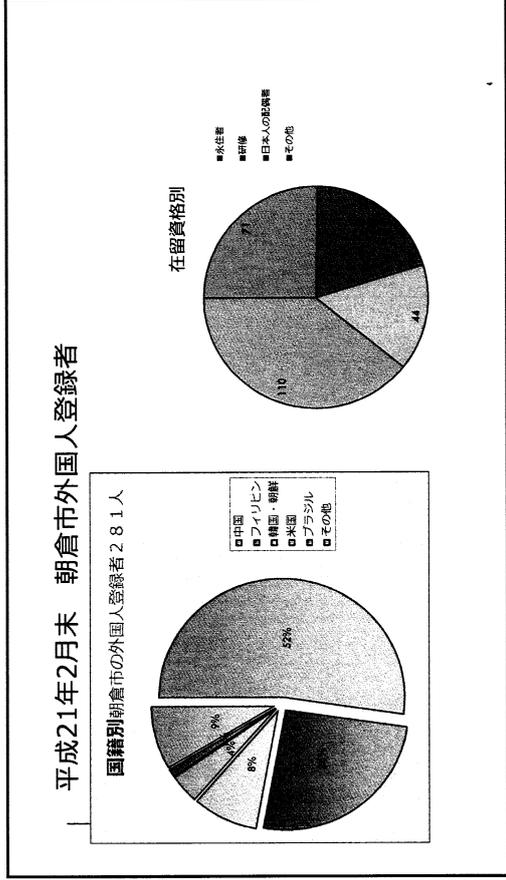
目的 多文化共生推進の一助としてのコミュニケーション支援
 ①異文化理解を通じて共に学ぶ ②生活者のための日本語支援 ③日本語の力をつける
 ④情報収集 ⑤友達作り
 2008年11月開講以来、のべ16か国110人の外国人と共に、生活の基盤となる日本語や日本の文化や習慣を学んでいます。

朝倉市の現状
 朝倉市における外国人登録者数は、近年増加しています。
 2019年(平成31年)3月末において、606人になり、総人口の1.25%を占めます。
 2009年(平成21年)の281人と比較すると325人増加し、特に2017年以降の増加が顕著です。
 人口の国籍別を見ると、ベトナムが最も多く、全体の33%を占めます。
 在留資格別でみた場合、技能実習が61%と最も多く、次いで永住者(15%)、日本人の配偶者等(5%)と続きます。
 2009年は国籍別では中国が最も多く52%(147人)在留資格別では永住者25%(71人)が最も多く、研修20%(56人) 配偶者16%(44人)その他39%(110人)

2



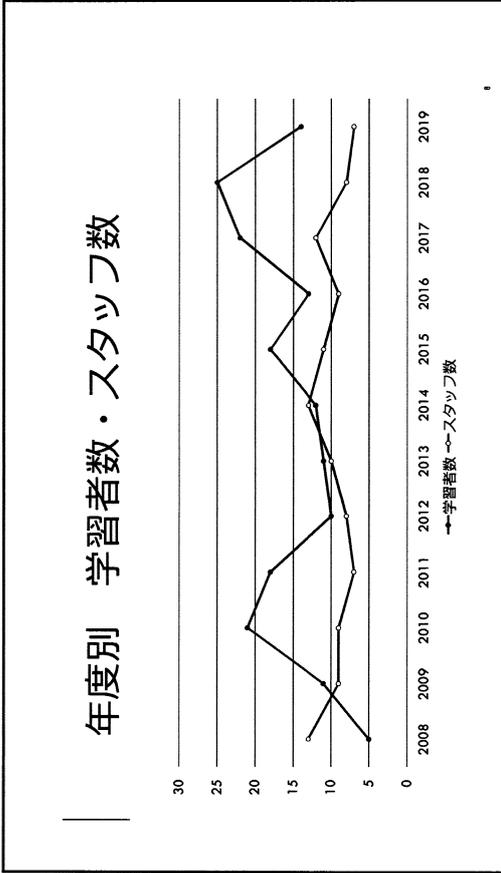
3



4

2008年度 (学習者5名 スタッフ13)
 9月～10月 ボランティア養成セミナー(於:久留米)・開講準備
 11月 開講 学習日: 第2・4水曜日 10:00～11:30 費用: 300円/月
 2009年度 (学習者11 スタッフ9) ぶるさどづくり地域活動支援事業助成金 グリーンコープ福祉活動組合員基金
 月2回 日本語学習・文化紹介(生け花体験・書道体験・七夕等)
 第1回料理交流会 21名 遠足(大宰府)
 2010年度 (学習者21 スタッフ9) グリーンコープ福祉活動組合員基金
 学習日: 毎週水曜日(月4回) 費用: 500円/月
 遠足(だんごあん) 第2回料理交流会 39名 クリスマス会
 2011年度 (学習者18 スタッフ7) グリーンコープ福祉活動組合員基金
 遠足(だんごあん) 和室体験 第3回料理交流会 14名 300円 クリスマス会
 2012年度 (学習者10 スタッフ8)
 4月～図書館の読み聞かせに参加(スタッフ) 第4回料理交流会 17名 300円
 2013年度 (学習者11 スタッフ10) グリーンコープ福祉活動組合員基金
 文化体験 書道(七夕) 和室ボランティア養成セミナー(4回) 市民10名
 スタッフ参加2名
 多言語のリーフレット作成

2014年度 外国籍住民と共に日本語・文化を学ぶ交流活動の啓発事業 (学習者12 スタッフ13)
 提案公募型協働事業 グリーンコープ福祉活動組合員基金 イオンイエローシートキャンペーン
 ①日本語教室の内容を多言語で紹介したリーフレットの配布
 ②日本語教室ボランティア養成のためのセミナーの実施
 ③地域住民との交流のための料理教室の実施
 校長会・コミュニティ事務局会長会で広報 七夕書道体験 茶道体験(和室) 年賀状作成
 日本語ボランティア養成セミナー実施 福祉のつどい(バザー参加) 第5回料理交流会
 2015年度 多文化共生の地域づくり推進事業 (学習者18 スタッフ11)
 提案公募型協働事業 イオンイエローシートキャンペーン
 ① ② ③ ④外国籍住民と共に日本語学習と文化体験による交流活動
 ボランティア連絡協議会日本地区総会(学習者2名発表) 校長会で広報 七夕体験 茶道体験 生け花体験
 日本語ボランティア養成セミナー 第6回料理交流会
 日本語ボランティア養成セミナー 第6回料理交流会
 協働事業に参加して利点・信用度 市との協働なので、依頼・勤務がしやすかった・資金面
 ・情報収集 広報の場の情報など資金面・会場確保 早期の予約⇒計画が立てやすい・外部有識者からの提言
 反省 提言を生かされなかった アプローチの方法等



アピール点

- 学習者の希望に沿った学習内容
 (検定受験準備・漢字・日常会話・会社での会話など)
- 日本の文化体験
- 地域住民との交流

課題

- ▶学習者が続かない
- ▶スタッフの固定化
- ▶スタッフのスキルアップ
- ▶資金面
- ▶開講時間(土日・夜)

日本語ひろば・いとしま

地域日本語ボランティア教室

1

教室の概要

- 教室オープン 2010年11月24日
- 場所 糸島市 人権センター
- 日 時 毎月 第2・第3・第4 水曜・土曜
- 時 間 10:00am~11:30am
- 参加費 一回 100円 (初回無料)

2

組織・運営

- 組織
- 代表…… 1名
- 会計…… 1名
- 事務局…… 2名
- スタッフ全員…… 14名
- 運営
- 年一回 総会
- 月一回 ミーティング
- 月当番……スタッフ全員が順番で担当
- 行事運営……役員以外のスタッフが担当

3

運営資金

- グリーンコープ福祉金(2011年・2012年)
- 九大連携交流事業補助金(2013年・2015年・2016年)
- 市からの委託金(2014年4月～)
- 学習者からの参加費
- 入会金 1,000円 (スタッフとして入会時に)

4

アピール点 行事等

アピール点
 学習者一人一人のニーズ・レベルに合わせた学習内容
 (インタビュースシート作成)

行事

- ・バス旅行(市内巡り)
- ・防災施設見学(体験学習)
- ・調理実習・七夕・ひな祭り・餅つき大会(人権センターとの共催)
- ・九大全体会(学習成果発表会・交流会)(年2回)
- ・「日本語ひろば・いとしま」の学習者 スピーチ大会

5

課題

学習者数の減少

- ・2016年度…受講者数 55人 述べ人数 538人
- ・2017年度…受講者数 112人 述べ人数 591人
- ・2018年度…受講者数 67人 述べ人数 337人
- ・2019年4月～ 受講者数 57人 述べ人数 249人

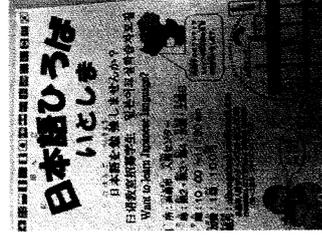
6

糸島市在住の外国人登録者数

	2019年 3月	2019年 12月
中国	147人	276人
韓国・朝鮮	142人	140人
フィリピン	50人	89人
ベトナム	43人	272人
ネパール	9人	101人
ミャンマー	0人	49人
他 (35か国)	127人	(65か国) 321人
総数	518人	1248人

7

学習者募集 チラシ 外国語版



8



1

開講までの経緯

2007年1月～2月

福岡県・(特活)女性エンパワーメントセンター福岡主催

「国際化ボランティア養成セミナー」開講

2007年3月23日

セミナー受講者を中心に、柳川日本語教室「水かげろう」設立

2007年4月～7月

開講準備・指導に関する勉強会(11回)、研修

2

活動

■日時 毎月第1・3木曜日 19:00～20:30

毎月第2・4木曜日 10:30～12:00

■場所 柳川総合保健福祉センター「水の郷」

2F ゆうゆうプラザ

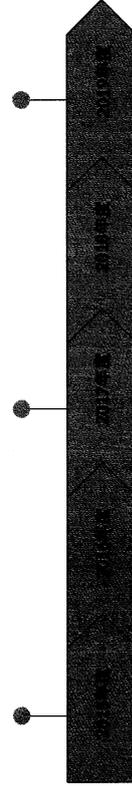
■会費 1回 200円

4

学習者のべ111名
出身国 中・仏・伊・
米・加・泰・比・越

学習者のべ63名
出身国 中・伊・泰・
羅

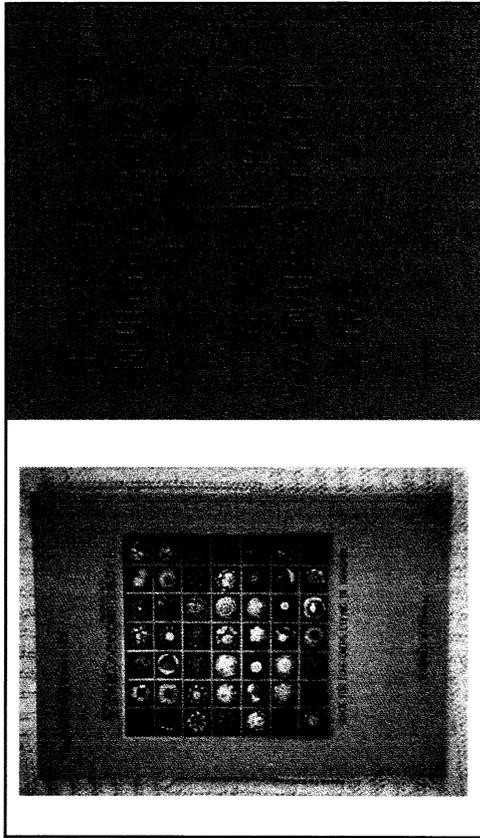
学習者のべ102名
出身国 中・伊・尼・
越・羅 (12月現在)



2015年度
学習者のべ77名
出身国 中・伊・米・
泰・越・新

学習者のべ76名
出身国 中・伊・比・
羅・尼

5



9

課題

1. 学習者が定着しない。
2. 就業しているスタッフが多いので、教材研究の時間が取りにくい。
3. 学習者の要望に応えられない。
4. スタッフのスキルアップが必要。

11

連絡先
柳川日本語教室
「水かげろう」
mizukagero@gmail.com

感謝ありがとうございました



12

1. 八女日本語教室よーら話そうの発足
2. 八女日本語教室よーら話そう活動方針
3. 八女日本語教室よーら話そうの開催状況
 - ・ 学習者
 - ・ スタッフ
 - ・ 活動資金
 - ・ 学習状況とティータイム
 - ・ 料理教室、日本文化体験
 - ・ 外国人の人権についての学習と広報活動
4. 学習者の支援
5. スタッフの連絡調整と研修
6. 今後の課題

八女日本語教室よーら話そう 活動報告

八女日本語教室よーら話そう
伊藤 福子

1

八女日本語教室の発足

- 2008年(平成20年)
1、NPO女性エンパワーメント福岡の呼びかけ
2、福岡国際交流センターの協力
3、八女広報等に「日本語ボランティア募集」
掲載
4、9月 会が発足→教室開設準備
30時間日本語ボランティア養成講座受講
5、11月13日開講
スタッフ23人 学習者3人

2

八女日本語教室よーら話そう活動方針

八女地域に住んでいる生活者としての外国人
(主に日本人と結婚した人)と交流をすること
とで、地域の生活にとけこんでもらい、より
充実した生活を送ってもらえるよう、交流・
支援を行っていく。

- ①日本語教室 → 日本語に親しんでもらう
- ②料理教室や日本文化体験等 → 交流を深める
- ③充実した生活を支援 → 学習会

⇒ 八女で定住してほしい

3

教室の開催日

- ▶ 場所 : おりなす八女研修棟
▶ 毎週木曜日 : 午前10時～11時45分
(第5週は休み)
▶ 参加費用 : 1回 100円

4

学習者

- ・登録者 76人 (女57、男19)
- ・出身国
フィリピン36人、中国15人、ベトナム13人、
その他 (タイ、グアテマラ、アメリカ、ロシア
日本、韓国、フランス、エクアドル)
- ・年齢 10代 8人
20代~60代 66人
60以上 2人

※ 5

5

学習者

- ・居住地
八女市 39人
旧八女市 20、立花 9、黒木 4
星野 3、上陽 2、矢部 1
- 八女市外 36人
筑後市 14、広川町 9、久留米市 5
大木町 4、柳川市 1、城島町 1
諫早市 1、山鹿市 1

※ 6

6

ボランティアスタッフの状況

- ▶ 日本語教師有資格者 4人
- ▶ 年齢構成
70歳代 4人
60歳代 8人
50歳代 1人
40歳代 3人
30歳代 2人
▶ 計 18人

※ 7

7

八女日本語教室よーら話そう活動資金

- ・スタッフ年会費 (一人) 年 1,000円
 - ・賛助会員会費 (一口) 年 1,000円
 - ・八女市からの助成金 年 20万円
 - ・広川町からの助成金 年 10万円
 - ・八女市社会福祉協議会からの助成金 年 5万円
- 大和証券福祉財団ボランティア活動助成金 30万円
▶ (2019年のみ 主に備品購入)

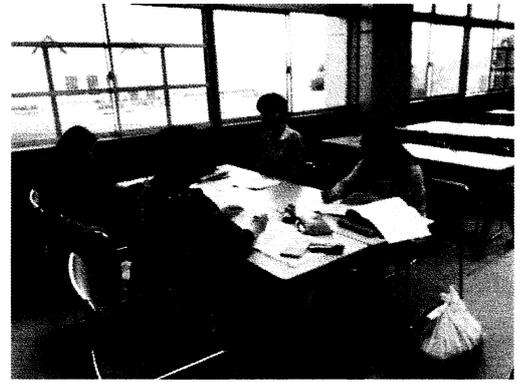
※ 8

8

むなかた日本語教室

1、 教室の概要

- ① 活動日 第1～第4金曜日午前10時～11時30分
- ② 活動場所 宗像市市民活動施設（メイトム宗像・会議室）
- ③ 年間活動日 約45日
- ④ 活動内容
 - ・地域に住む日本語を母語としない方への日本語学習支援
 - ・日本文化の体験学習
 - ・地域、学校等への情報提供
- ⑤ 学習者 活動時間帯に関わって、学習者の層が主に主婦である。または、平日午前に学習ができるという融通の利く職種の人々である。長期に参加している学習者もいれば（10年）、1,2回で参加しなくなる学習者もいる。現在安定して参加している学習者は、20名ほどである。内訳は、アジア圏が9名であり、欧州圏4名、北・南米圏3名、北アフリカ圏1名、豪州圏3名である。また、そのうち漢字圏が4名であり、非漢字圏が16名である。傾向としては、非アジア圏の人々が増加してきており、日本国籍の取得を考えている学習者も増えてきている。
- ⑥ 会員（指導者） 現在7名。退職者と主婦層からなり、高年齢集団である。女性5名・男性2名。



2、 日本語学習支援以外の主な活動

- ① 日本語学習支援のみではなく、住民としての視点で生活支援・相談等随時に実施。特に、学習者の子どもたちについての教育に関わる事案については、学校等に連絡・相談の実施。
- ② 日本文化や学習者の故国文化への理解促進に向け、年数回のイベントの実施。毎年10月の学習者の故国の調理実習。随時に書道・華道・着付け体験等の実施。
- ③ 会員（指導者）については、日本語に堪能な方であれば、国籍問わず応募可としている。会員相互で指導者養成を試行中。

3、 課題

- ① 日本語指導者の養成（慢性的な指導者不足と高齢化）
- ② 関係機関との連携の仕方（教室運営の広域化）
- ③ 学習者対応のあり方（学習者層の多様化）



春日市における日本語支援

～「かすが・にほんごひろば」と「かすが こどもにほんごクラス」の活動報告～

かすが・にほんごひろば 日本語コーディネーター

松浦 蘭子

かすが こどもにほんごクラス 日本語コーディネーター

竹石 久美子

1. かすが・にほんごひろば(大人教室)

1.1. いつ、どこで、何をしているの？

- 毎週木曜日 AM10時～AM11時45分
- クローバープラザ(JR春日駅横)
- 春日市から委託を受けて、日本語が母語ではない定住外国人に、生活のための日本語をボランティアで教えている
- 年間46回、日本語レッスン以外に文化イベントも開催

1.2. いつから、どうやって運営しているの？

- 2012年4月に発足
- 春日市からの委託費で運営
- 17人のボランティア教師が活動

1.3. 学習者はどんな人たち？

- 国籍は、中国、韓国、フィリピン、マレーシア、アメリカ、アルゼンチン、インド、イラン、カンボジア、タイ、ネパール、スリランカ、イギリス、フランス、ブラジルなどの成人30名ほど
- 職業は、学生、研究者、主婦、語学の先生など
- 春日市及び近隣の町に在住

1.4. アピール点は？

- 通常クラスと「コミュニケーション・クラス」
- 学習記録を記入
- 授業報告や担当予定の連絡はスプレッドシート、諸々の連絡や相談にはLINE、学習者への広報にはFacebookを利用

2. かすが こどもにほんごクラス(子ども教室)

2.1. いつ、どこで、何をしているの？

- 毎週土曜日 AM10時~PM12時
- クローバープラザ(JR春日駅横)
- 外国にルーツをもつ子ども(幼児~中学生)に、学習や生活のための日本語をボランティアで教えている
- 年間48回、日本語教室以外に体験教室も企画

2.2. いつから、どうやって運営しているの？

- 2015年に発足
- 参加費と寄付金、西日本国際財団の助成金により運営
- 18人のスタッフが活動

2.3. 学習者はどんな人たち？

- 国籍は、中国、韓国、ネパール、オーストラリア、イラン、日本など15名ほど
- 4歳から中学1年生まで
- 春日市及び近隣の町に在住

2.4. 活動のながれ

- 10時~ 朝の会(挨拶、自己紹介、パートナーの確認)
- 10時20分頃~ 学年の習得度に合ったグループまたは個別指導
- 11時20分頃~12時 活動(週替わりで創作活動)

3. 春日市の課題

3.1. かすが・にほんごひろばの課題

- 先生の人数が不足
- 複数の学習者を教えられる先生の育成

3.2. かすが こどもにほんごクラスの課題

- 先生の人数が不足
- 発達段階と来日時期によって指導が変わる
- 心のケアが必要
- 子どもの日本語教育システムの構築
- 財源が安定しない

以上

ワークショップに参加できなかった教室からのメッセージ

●うきは日本語教室「みんなの果樹園」 代表 諫山和代

うきは日本語教室の現状をお知らせします。

国際結婚のドイツ人女性1名。農業研修生タイ人男性2名。フィリピンの母息子2名です。この先、研修生が増える予定です

先日は、皆で、太宰府に遠足に出かけ、日本文化を肌で感じて感激していました。来週は、日田市へ出かける予定です。日本語が未だ読み書き出来ない人や、レベルが様々なので大変です、

これ迄は、つきに2回の教室でしたが、みなとても熱心で、今は毎週やっています。特に、農業技能試験の前は、夜の教室も開校して頑張って勉強しました。試験に合格して頑張っています。

●日本語くらぶ田川 代表 末廣容子

日本語くらぶ田川が、2007年10月に開講式を行って12年が経ちました。

現在は学習者6名（ベトナム1、中国小学生1、タイ兄妹2、ネパール親子2名）とスタッフ6名です。小さな日本語教室ですが、和やかな雰囲気頑張っています。今春より県立大学の学生さんが参加してくれる予定です。

日本語学習だけでなく、茶会や料理教室など異文化交流も行ってきました。

この間、学習者が連絡なくやめたり帰国したりと戸惑うことも多く、また、スタッフの熱意や意見の違いもあり、会をまとめていくのが大変な時もありました。

今後も少しでも地域の外国籍の方の力になり、異文化交流できるように、皆でがんばっていきます。